

2018年度 全国公民科・社会科授業研究会「授業研究委員会」研究集会のお知らせ

私たち全公社研「授業研究委員会」では、このところ毎年、公民科・社会科として将来の主権者を育むためのさまざまな実践を研究討議してきました。そのなかで、さらにその根底にある、社会で生活し働く主体となる生徒たちのために、公民科・社会科としてすべきこと、できることについてきちんと検討していくことが課題となってきました。そこで今年度の研究集会では、「働くこと」をテーマにとりあげたいと思います。

現在、働き方改革やワークライフバランスが叫ばれ、人の生涯のなかで「働くこと」の意味が改めて問い直されています。そして、「働くこと」は、ふつうは資本と労働者との関係の場で行われます。公民科・社会科では、働くときに身につけておくべき権利についての学習を積み重ねてきました。また、労働力商品の売り手となり買い手となる現れを通して、経済的視点から「働くこと」を見ることもでき、重要です。今回の研究集会では、公平性を指向する法／人権と、効率性を指向する経済の2つの視点を同時にもちながら、公民科・社会科で「働くこと」を学ぶとはどういうことか、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。

公民科・社会科教育関係者の皆さま、また今回のテーマに関心をおもちの皆さま、是非ご参加ください。なお、今回の研究集会は、とくに参加お申し込みは必要ありません。

記

★テーマ：公民科・社会科授業で、「働くこと」について何をどのように教え考えさせるか。

★日時：2018年12月22日（土）午後1時～5時（受付12時30分より）

★会場：東京都立高島高等学校 特別講義室1

〒175-0082 板橋区高島平3-7-1 都営三田線「新高島平」下車徒歩7分

http://www.takashima-h.metro.tokyo.jp/site/zen/gakkousyukai_access.html

★プログラム

①講演会：「私ならば『働くこと』をこう教える～公民科・社会科に期待するもの～」

・笹山尚人 弁護士（著書：岩波ジュニア新書『労働法はぼくらの味方！』）

・山崎憲（独）労働政策研究・研修機構主任調査員（著書：岩波新書『「働くこと」を問い直す』。専門は日米の労使関係論）

②授業実践発表

・肥下彰男 大阪府立今宮高等学校教諭

・杉田孝之 千葉県立津田沼高等学校教諭

③討論：「『働くこと』について何をどのように教え考えさせるか～公民科・社会科におけるミニマムをつくる～」

★問合せ先：「授業研究委員会」事務局 落合 隆 jugyoukenkyu@yahoo.com

神奈川県立相模原青陵高等学校

〒252-0325 相模原市南区新磯野468 TEL042-747-0531 fax042-740-2848